

技のポイントに着目し、

より美しく、ダイナミックな動きに高める学習

第5学年

器械運動「跳び箱運動」

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- 自らの動きをタブレット端末で見直し、自分で選択した技のポイントを確認しながら、より美しく、ダイナミックに演技することができました。
- 撮影し合った動画で仲間の技のポイントを確認しながら、ともに演技を上達させることができることを実感できました。

タブレット端末の活用による効果



前時までに撮影した自分の技の動きを
タブレットの動画で確認することで、
本時の課題を明確にすることができるようにする。

- ・前時までの自分の動きについて、技のポイントに着目できるようにし、本時高める動きのポイントを明確にした課題化ができるようにする。
- ・本時の導入場面での演技を撮影し、記録に残し、終末場面での動きと比較できるようにする。



追究場面において、互いの技の動きを
タブレットの動画で撮影して
自ら確かめることで、技のポイントに着目し、
動きを高めることができるようにする。

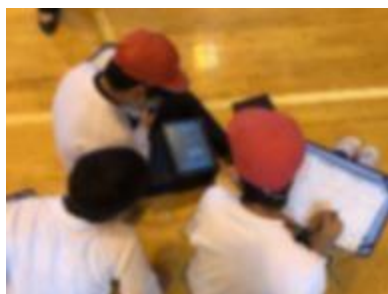
- ・前時までの記録位置と同一の位置にし、比較できるようにする。
- ・課題化した高める動きのポイントを演技者が記録者に伝え、意識できるようにする。
- ・記録した映像を確認しながら、技のポイントに着目した交流を行うことができるようにする。



発表場面において、互いの技の動きを

タブレット端末の動画で撮影し、確かめ合うことで、
自らの動きの高まりを実感することができるようにする。

- ・導入場面の演技と比較し、自らの演技の高まりを視覚的に実感できるようにする。
- ・単学年だけでなく、複数年にわたって個々の動きの記録を残し、学びの連続性、発展性につなぐことができるようにする。



教師の指導のポイント

- 一連の演技全体を大きく見るだけでなく、本時の学級の課題、個々の課題に応じて、動きのポイントを明確にし、焦点化した記録、交流ができるようにする。
- 領域ごとに一連の動きの系統性、発展性を、個々の児童の演技の姿で記録することができる。それを生かし、個々の児童の学びに向かう関心、意欲を高めることにつなげる。